



2015年11月1日

## 事務所ニュース Vol.204

### 給与計算業務のアウトソーシングのご案内

給与計算業務は労働基準法はじめ各種関係法令を順守する必要があり、雇用保険料率の改正や健康保険・厚生年金保険料率の改定、昇給や降給による社会保険料額の変更など、様々な要因により手間のかかる作業です。社長自ら給与計算を行う場合、本業の時間が減ることになり、また事務担当者を雇う場合は知識を持った方が必要となり、人件費コストも発生します。今回は当事務所が行っております、給与計算業務のアウトソーシングについてご案内致します。

#### 給与計算をアウトソーシングするメリット

##### ①担当者の退職・休職への備え

業務に慣れた給与事務担当者の退職や休職があれば、新しい担当者に指導し、給与計算を覚えてもらう必要があります。過去に他社で給与計算業務を経験した方を雇った場合であっても、給与計算は会社により千差万別ですので、習得するまでにはミスが起り得ます。アウトソーシングは担当者の退職・休職や計算ミスなどを心配することなく、会社の運営を継続することが出来ます。

##### ②人件費コストの削減と他業務への従事

給与計算やその他の事務のために担当者を雇い入れる場合、給与支払や保険料の負担など、人件費コストが発生します。また、既に担当者がある場合であっても、給与事務は重要な業務ですが、会社に付加価値を生み出す仕事ではありません。アウトソーシングは担当者を新たに雇う人件費を削減でき、既に担当者がある場合でも、その担当者に付加価値の高い別の業務へ従事してもらうことが出来ます。

##### ③給与計算ミスのリスク回避

給与ソフトを利用している場合でも、基礎データ入力ミスや、勤怠集計の際の残業時間（法定内・法定外）の集計方法などの間違い、保険料率等の改定処理の漏れなどがあれば正確な給与計算は出来ません。ミスが発生すれば、従業員の信頼を失う事にもつながり、また、法令に抵触してしまう可能性もあります。アウトソーシングはこういったリスクを最小限に抑えることができる有効な方法です。

#### アウトソーシングの方法

当事務所では、事業所様の実態や希望に沿ったアウトソーシングの方法をご提案しております。

##### 例1) 給与計算関係業務の全て

- ・勤怠集計・データ管理
- ・給与計算処理
- ・賞与計算処理
- ・明細の出力
- ・年末調整
- ・その他の付随業務

##### 例2) 給与計算のみ

- ・勤怠データ管理
- ・給与計算処理
- ・賞与計算処理
- ・明細の出力

##### 例3) 給与計算アプリケーションのご提供

- ・事業所様で勤怠の入力から、支給明細、賞与、年末調整などの業務ができる「ネットde賃金」を提供  
(保険料の改定等は自動更新、諸手当や時間外の単価などの設定は当事務と事業所様のどちらで管理するかお選び頂けます。)

#### マイナンバー管理システムと連携

給与計算は自社で行うので、必要性をあまり感じないと思われるかと思いますが、マイナンバー制度が始まり、管理を含めた事務手続きが煩雑になることを考えると、給与計算と管理システムの連携が有効だと考えます。

給与計算事務をアウトソーシングして頂くと、当事務所のマイナンバー管理システム「マイナde社労夢」と連携し、マイナンバーの記載が必要な源泉徴収票の作成など税務関係の事務の一部も同時にアウトソーシングすることができ、さらに給与明細、源泉徴収票のWeb発行も可能です。また、「マイナde社労夢CL(クライアント)」を別にご契約頂くと、事業所様で独自に報酬、不動産支払調書の作成などに管理システムを利用することが出来ます。

これら給与計算とマイナンバーの管理の二つをアウトソーシングされれば、事業所様はマイナンバーの取得時にしっかりと「本人確認」、「利用目的の通知」等を行い、システムに登録をしまえば、事業所内でマイナンバーを管理、取扱う頻度は限りなく少なくなり、手続きや管理の煩雑さから解放されることはもとより、マイナンバーを含む個人情報の漏洩、滅失、毀損といった事故のリスクを減らし、会社を守ることに繋がります。

**仕組みや費用などご説明致しますので、是非一度ご連絡下さい！**

#### ○当事務所からのお知らせ

・平成27年度 労働保険料第2期分の納付について

労働保険料第2期分納付期限は**口座振込の事業主様は11月2日(月)**です。

お振込がお済で無い事業所様は、至急お振込をお願い致します。

#### 後記

娘が先日1歳を迎え、好奇心と行動力が高まって、日々できることが増え、目まぐるしく成長？しています。人間を成長させる要素として、やはり好奇心は大きな要素の一つだと再認識させられました。「初心忘るべからず」とはよくいったもので、この仕事に対する好奇心が大きかったころの気持ちを忘れずに成長することを意識していきたいと思います。(T)

